



いのちの電話に寄せて

福岡いのちの電話後援会 理事

稲村 鈴代

(稲村法律事務所 弁護士)



数年前から月1回、夜に、学生時代の友人と長電話をしています。卒業後はそれぞれ仕事や家事・子育てなどに追われて年賀状だけ、中年以降はたまにメールを、還暦を過ぎてからは一緒に旅行に行ったりしていました(これって、女友達に多いパターンだそうですね)。しかし相変わらず遠方に住んでいて、お互いに親の介護などでフットワークが良くなく、また目がかすんでメールは、「う〜ん・・・」に。それで、相手の都合を心配しなくていいように、あらかじめ日時を約束して電話でおしゃべりすることにしたのです。携帯をかけ放題プランに変更、思いっきりリラックスしていたので、姿かたちが映るテレビ電話は使わないことにしました。

約束の時間が近づくと、マグカップに温かいお茶をたっぷり入れ、寒くないようひざ掛けをし、背中にクッションを当て、準備万端ととのえます。お互いにしゃべりたいことを1、2時間くらいしゃべるだけですが、翌月の約束をして電話を切った時の私は、明らかに電話する前よりも気持ち軽くなっています。心のうちを語りことや温かい声を聞くこと、共感してもらうことの効用を、毎回、大いに実感します。私は、電話相談の相談者の方も、もちろん程度は違うにしても、これに近い感覚を味わっておられるのでは…と思っています。

ところで、コミュニケーションツールが増え、家族や友人間の通信も電話よりもメールやラインが多くなり、若い人はそもそもあまり電話をかけなくなったとか・・・。

相談事業でも、電話相談の他に、メール相談や、ライン

相談などのインターネット相談が行われるようになり、福岡いのちの電話では10年以上前から、電話相談に加えてオンライン(メール)相談が行われているそうですね。メールは身近で手軽、コミュニケーションツールは文字のみという方も利用でき、また受け手に自分の声を聞かれずにすみませす。電話よりも相談のハードルが低いかもしれません。悩んでいる人が孤立せず、行き詰まる前に相談につながるためには、相談の入口は広ければ広いほど良いでしょうから、コミュニケーションツールが増え、相談者の選択肢が増えて、良かったなあと思います。

他方で、福岡いのちの電話は24時間体制で行われ、電話相談もメール相談も、辛い深刻なご相談が多く、本当に命にかかわるご相談も少なくないと聞いています。相談者に寄り添いながら相談を受ける相談員さんたちは熟練・ベテランの方たちで、バックアップ体制もしっかりしていると聞いていますが、運営するスタッフのみなさんも含めて、心身の負担とご苦勞は、以前より増しているのではないのでしょうか。

マスクはもうすぐはずせそうですが、ニュース等を見ると、政治も、経済も、社会も何だかイヤ〜な感じです。また誰も経験したことがない超高齢社会は目前です。これまでにない漠然とした不安を感じている方は少なくないでしょう。

福岡いのちの電話への期待はますます大きくなっていくと思われます。相談員さんやスタッフの皆さんのご健康とご活躍と、福岡いのちの電話のますますのご発展を祈念しております。

2022年度 自殺予防公開講座

しにたい気持ちが消えるまで

～しにたい気持ちを抱える子供たちへ先輩が伝えたいこと～

詩人・エッセイスト 豆塚 エリ 氏

3月5日(日)午後2時から、福岡市中央区のNTT夢天神レソラホールで、自殺予防公開講座を開催しました。詩人でエッセイストの豆塚エリ氏をお招きし、「しにたい気持ちが消えるまで」をテーマにお話をいただきました。その概要をご紹介します。



「死にたい気持ち」には、口ぐせのレベルから自殺実行までグラデーションがあるので、インパクトの強い「死」ではなく、あえて「し」としました。16歳のときに飛び降り自殺を図り、重い障害を負ったのですが、10年くらいはそのことについて誰にも語ってきませんでした。母が韓国人の日韓ハーフの私は、日韓関係が険悪で嫌韓的な雰囲気が広がっていたころ、親しい友人から、日本と韓国のどちらの味方なのかと問われ驚いたり、知人がフェイスブックでかなり差別的な表現で韓国を取り上げたりしたことがとてもショックでした。それをツイッターでつぶやいたところ、意外なほど多くの励ましのメッセージがあり、BuzzFeed Newsでの取材に繋がり、2019年10月に私の自殺に関する記事で体験を語るきっかけとなりました。

障害者、貧困、シングルマザーの家庭、義父からの虐待など、誰にも言わず今までずっと我慢してきたことを語ることで、身近に差別があることを伝えられると考えました。当時は自分や家族に原因があり、そこが変わらなないと、と考えていましたが、実は変わらなければならないのは社会の方ではないかと思うようになりました。テレビやウェブメディア、雑誌のコラムへの寄稿などで当事者として自分の経験を語ったり、誰かの経験を聴くことで、対話が生まれ、共感や理解を得、仲間を増やすことができ、人との繋がりの中で、自分も相手も、そして社会も変わるとい

うことを実感しています。

どうして死にたくなったのか

母は働き者でしたが、在日韓国人でシングルマザー、生活の辛さからかパチンコに依存気味でした。再婚した義父とは私への精神的・経済的な虐待などから関係がうまく築けませんでした。高校では離人感、ふわふわした感じで現実感がなく、主体性が失われているような感覚にしばしば陥っていました。母との関係もよくなり、家にいたくないので、深夜に外をウロウロ。

進路の悩みにも「お金がない」と、母が全く相談にのってくれない。母との口論、暴力。先生にも取り合ってもらえず、大人への強い不信感。友人たちも自分のことで精一杯なので助け合う関係にはなりません。人に頼り、助けてもらうなんて屈辱的なことであり、強くない自分はいらなし、価値ある人間になれ

なければ死んだ方がいい。情けない自分も他人も許せなくてそれが苦しいと、自分で自分を苦しめる思い込みがありました。

16歳の冬、急に起きられなくなり、高校をサボったら母に叱られました。「居場所がない」「死ねばいいのでは?」「今死ななくては」。遺書として書いた詩が「この日のために生まれてきた/そう思えて/ならないのです・・・」でした。躁のスイッチが入ってしまったような、晴れやかな気分で、そのまま飛び降り、一



命は取り留めたものの首の骨を折る重傷で、重度障害が残ってしまいました。呼吸すること、飲むこと、食べること、排泄すること、眠ることすら自力でできない極限状態で、苦しくて辛かったのですが、「死にたい」とはなぜか思いませんでした。身体が生きたがっていました。

私が殺そうとした身体が、私に生きろと言う

「今ここ」に自分の身体がある、生きている、ただそれだけでした。気管切開をして一時的に声の出ない生活になり、寝たきりで清拭も排泄も全て看護師や介護士に頼っていました。ありがたいの代わりに、なるべく笑顔を向けるように努力してみると、嬉しそうにしてくれ、頼ることを喜んでくれる人もいるのだと知りました。「人に迷惑をかけてはいけない」の裏返しの「迷惑をかけなければ何をしてもいい」という驕りがありました。頼ることが甘えではなく、むしろ頼って生きていることに無自覚なことこそが甘えであり、自分の欠点を認め、上手に頼ることが本当の自立だと気付きました。苦しみも、つらさも、頑張りも、成果も、人と比べる必要はなく、日々頑張っている自分、支えてくれる人たちなど、自分にとってよりよいものは、いつでも自分の中にあり、そばにいる。嫉妬や自己卑下のモードに入ったら、今まで自分がやってきたこと

に目を向け、その続きに取り組んでみることです。

しにたい気持ちを抱えている子どもたちへ

「時間をケチケチすることで、ほんとうはぜんぜん別の何かをケチケチしているということには、誰一人気が付いていないようでした」。これは、ミヒヤエル・エンデ著「モモ」の一節で、時間とは、使うものでも、節約するものでも、浪費するものでもなく、ただ流れていくものだと気付かされました。佐久間裕美子著の「ピンヒールははかない」では、「幸福とは瞬間的に感じるものであって、継続的な状態ではない」とあり、「継続的な幸せ」は幻だと受け入れることができれば、「他人から幸せに見られたい」のような他者承認の欲求から解放されるかもしれません。

本気で死にたい人にとって言葉は無力です。必要なのは、無理に話さなくていいから、好きなこと、くだらないことを一緒にやってみたり、誰かと共に時間を過ごすことや、自然の中に身を委ね、風の音、日差し、の温かさ、他の生き物の気配などを全身で感じるのだと思います。居場所を選ぶ、自分で稼ぐ、この2つが自由になるだけで大分楽になります。しにたい気持ちを抱えている子どもたちに、今が一番辛いのは重々承知な上で、それでもその2つが自由になる大人になるまで、どうか生き抜いてほしいと伝えたい。

講座を受けての感想



- ・人にも自分にも優しく…人に頼ってもいい、甘えてもいい。相談するのが大事です。
- ・おだやかに淡々と来し方、自身の考えを理路整然と語られ、非常に納得。感銘を受けました。
- ・生きづらい社会の子供たちに贈る言葉「大人になると生きやすくなる」。
- ・「死のうとしても身体は生きたがっている」！
- ・うまく言うよりも、一緒に過ごすこと、ただ話を聴いてくれる人がいるのはありがたいと思いました。
- ・自殺未遂の先輩としての話は、今、現在苦しんでいる方々にとって、とても力強い話だったと思います。
- ・「モモ」の話で“時間”の話はよかった！ 時間は大切なのでじっくり向かい合って過ごしたい。
- ・エリさん、生きていてくれてありがとう。
- ・本当の自立とは一。人に頼るのは悪いことではない。自分を許し、受け入れることが大切。

講演を終えて 会場の様子



寄附・カンパの様子



手作り品販売



書籍販売



ある相談員の話

連続ドラマを見ていたら、若手の人気俳優が「いのちの電話的な」というセリフをサラリと言った。有名な脚本家がこういうフレーズを台本に書いたことに驚いた。長年、日の当たらない社会の片隅で活動してきて、知る人ぞ知るフレーズとあっていただけに、誰でも知っているかのような使い方に、いろんな意味でギャップを感じた。ドラマでのニュアンスは、孤独な人が誰かと話したがっているというような使い方だった。ある種の核心を捉えており思わずフリーズしてしまった。

本当に、日常を生きる人誰でもが、ふと孤独を感じるような瞬間にいのちの電話にかけてくれたらと思っていた。どんな人の人生も山あり谷ありで、友人や仲間さえも見失う時がある。身近な人だからこそ話せないこともある。そんな時、電話することで、広い世間に一人で生きているわけではないと、一緒にたたずんでくれる人もいるんだと感じてほしい。そう思って活動してきた。何も素晴らしい言葉を吐くわけではなく、だだ、ただ、うん、うんとうなずくだけで話を聴いている。いのちの息吹を聴いている。何かの絆を感じてもらえたら、しばらくは生きてみよう、もうちょっとやってみようと、温かさが伝わったらそれでよい。こちらの心も温かくなる。

だけれど、現実には、そういう温かい出会いばかりではない。聴こうとする人に向かって、怒りや恨みやネガティブな感情をぶつけてくる人たちもいる。生きている中で、傷つくこと、理不尽な体験、否定

されること等々、マイナスなこともいっぱい経験する。それを悲しみとして表現してもらえばまだ聴けるのだけれど、あたかも嫌なことを体験させた当人へ向かうかのような怒りをぶつけられたら、普通の人の心は折れてしまう。そういう過大な怒りを受け止めることは、聴くことを超えている。それは話をするのではなく、一方的に責めることなので、電話では受け止めきれない。そういう感情の嵐に襲われることが増えてきたように思う。

嵐が過ぎた後は、人の輪で傷を修復し、痛みを抱えながらもまた電話に耳を傾ける。一人一人の力は微弱だけれど、一人一人の力が結集されたら何かができる。そう信じられる人から活動に立ち戻っていく。いくつものバトンが経験のある人からこれから聴こうとする人に手渡され、年を重ねていく。嵐でなくても、聴いた内容に不安が大きくなり、耐え切れなくなり、放り出そうかと思っても、まだ聴いている。どこかで急転直下希望の光が差し込み、窮地を脱出する。心のエネルギーをたくさん使って、電話室を出るころには足元がふらつく。もう次は休もう。自分なりに十分働いたから、こころでバトンを渡そうと思って帰っても、しばらくすると、そんなことも忘れて、仲間と話したくなって、いつの間にかセンターに来て電話をとる準備をしている。「嫌じゃないのね」と笑われる。静かにほほ笑みながら、そうかもしれないと思う。

福岡いのちの電話

第49期 ボランティア募集

福岡いのちの電話ウェブサイトで最新情報をチェックできます。
アドレス：www.f-inochi.org/bosyu

今年度の電話ボランティア、事業ボランティアの募集は5月1日からです。

関心のある方は事務局までご一報ください。募集要領が印刷でき次第お送りします。



昨年の自殺者2万1,881人 コロナ禍で「高止まり」が続いています

2022年の自殺者数は、警察庁の自殺統計（3月14日発表の確定値）では、2万1,881人となっています。21年の確定値と比べて874人増えました。新型コロナウイルスの国内流行前は10年連続で減少する傾向が続き、19年には2万1,699人となっていました。コロナ禍の中で1,000人ほど増えたまま、いわゆる「高止まり」の状況が続いています。

男女別でみると、男性が前年確定値比807人増の1万4,746人です。女性は同67人増の7,135人で、コロナ流行が始まった19年に増えて以降、7,000人台で推移しています。

コロナ禍が長引いていることや、世界情勢が緊迫化したのに伴い経済状況が悪化し、就労環境も一段と厳しくなっていたことが影響していると考えられています。共同通信社の報道によりますと、厚労省の担当者は「40代から60代の男性のほか、失業者や年金生活者らで増加が目立つ」と話しているそうで、芸能人など著名人の自殺の影響もあったのではないかとみられています。

失業者の自殺は1,874人を数え、前年より1,166人増え、約2.6倍にもなっています。年金や雇用保険、生活保護で生活している人は7,658人で2,765人増え、こちらは約1.6倍です。

原因・動機をみると、うつ病など病気の悩みを中心とした健康問題が1万2,774人と最多で、過半

数を占めます。それに続くのが家庭問題で4,775人です。中でも「夫婦関係の不和」が最も目立ち、「家族の死亡」「家族の将来を悲観」「親子関係の不和」などのほか、「介護・看病の疲れ」「子育ての悩み」「家族からのしつけ・叱責」なども少なくありません。

また、報道によれば、自殺した小中高校の児童生徒が514人に上り、初めて500人を超え、統計のある1980年以降で最多となったとのこと。

内訳は小学生が17人、中学生が143人、定時制・通信制を含む高校生が354人です。小中高生を含む19歳以下の自殺の原因や動機を調べた厚労省の統計では、「学業不振」「進路に関する悩み（入試以外）」「入試に関する悩み」が多いほか、「失恋」「男女交際をめぐる悩み」「学友との不和」「いじめ」なども目立ちます。

3月は国が取り組む自殺対策強化月間でした。これに際し、加藤勝信厚生労働大臣は、悩みを抱えて困っている人に向けて「どうか一人で抱え込まないで」と呼びかけ、「身近な人に話しづらい時には、悩みや困りごとの内容に応じた電話やSNSでの相談窓口を、どうぞお気軽にご利用ください」とメッセージを発しています。

私たち福岡いのちの電話は、そうした窓口の役割をしっかりと果たして参ります。

長谷川 彰（福岡いのちの電話 理事）

3月は自殺対策強化月間です

自殺対策基本法では、例年月別自殺者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定め、地方公共団体、関係団体等とも連携して「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向け、相談事業及び啓発活動を実施しています。福岡市では期間中、あいろん1階にて関係団体のポスター、パンフレットを展示しています。福岡いのちの電話もリーフレット等で参加中です。



理事長がライオンズクラブで卓話

1月12日（木）福岡城東ライオンズクラブの例会において、久保千春理事長が「福岡いのちの電話」について話しました。コロナ禍での自殺者の現状を伝え、いのちの電話の役割や意義について参加者に理解を深めていただきました。（写真左）

また、同ライオンズクラブからの寄附等のご協力に対し、久保理事長が同クラブ佐藤修一会長に感謝状をお渡ししました。（写真右）



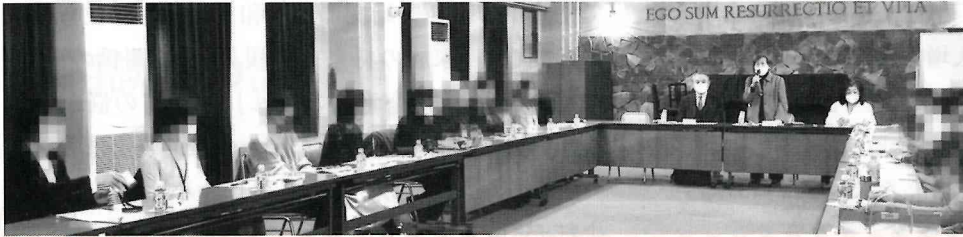
3か月ミーティングが行われました

電話ボランティア47期17名は9月から養成講座のパートⅡに入り、電話をとり始めています。11月25日（金）に、五斗美代子常務理事、松尾

公孝教育委員長、電話ボランティア養成サポーターを交え「3か月ミーティング」が行われました。

47期生から電話を受けての感想、不安、疑問

などが出され、養成サポーターから先輩として労いの言葉やアドバイスがありました。

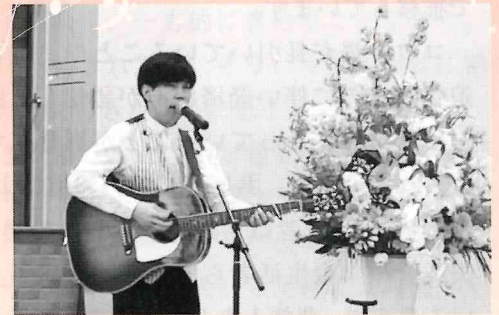


ブラッシュアップ研修の実施

電話ボランティアのベテランを対象とした研修が、2グループに分けて行われました。2月4日（土）の講師は吉良安之氏、3月11日（土）の講師は福留留美氏。

いずれのグループの参加者も新たな気づきがあり、仲間との繋がり goodness を再確認していました。ブラッシュアップとともに充電の場にもなったようです。

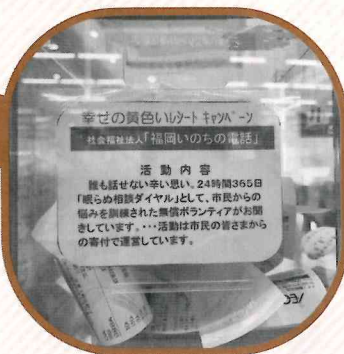
チャリティーコンサート



3月18日（土）、福岡市中央区の大名クロスガーデンにおいて、福岡いのちの電話を支援する実行委員会主催で「昭和のこころコンサート」が開催されました。出演はシンガーソングライターの長谷川万大さん。オリジナル曲に昭和の歌を含め伸びやかな声で会場を沸かせました。会場では福岡いのちの電話の事業ボランティアが制作した手作りグッズも販売されました。

幸せの黄色いレシートって？

イオングループでは毎月11日に黄色いレシートが発行されます。レシート金額の1パーセントを指定団体に贈呈するというキャンペーン。福岡いのちの電話ではイオン香椎浜店に団体申請し、認可されました。お買い物後に、レシートを指定のボックスに入れているようになっています。



オリジナル「支援自販機」設置をお願いします

企業、団体から、販売収益の全額または一部をご寄附いただく「自販機支援募金」として自販機設置のご協力をいただいています。ご利用いただく皆様からも、間接的に福岡いのちの電話を支援していただくことになります。おかげさまで多くの支援募金をいただいております。ありがとうございます。



ご援助ありがとうございます

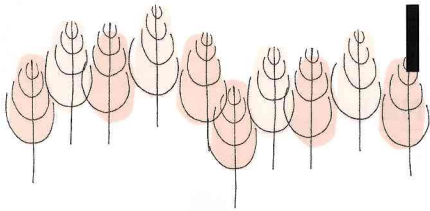
寄附感謝報告 2022年12月1日～2023年2月28日（敬称略・受付順）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。

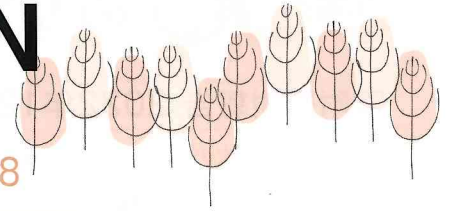


千人会					
濱 孝明	10,000	有吉光寛	5,000	カトリック南粕屋教会	5,000
福岡聖パウロ教会	10,000	福岡聖パウロ教会 麦の会	5,000	田中幸彦	1,000
(学)松原こひつじ幼稚園	20,000	カトリックカルメル会修道院	3,000	福岡鶴城ライオンズクラブ	200,000
(学)聖公学園草ヶ江幼稚園園児一同	10,000	(一社)生命保険協会 福岡協会	50,000	藤田幸枝	10,000
五十嵐 実 (㈱福岡住宅センター)	10,000	中島貴美子	10,000	小郡カトリック教会	20,000
福島あい子	10,000	福岡市民クリスマス実行委員会	10,000	志鶴昭久	3,000
五斗美代子	10,000	執行好子	20,000	久能治子	10,000
原口 勝	10,000	(学)信愛学園 周船寺第二幼稚園	5,000	日本基督教団 福岡中部教会	10,000
石橋明人 (石橋内科循環器科医院)	10,000	国際ソロプチミスト太宰府	50,000		
濱生正直	10,000	日本キリスト教会 福岡城南教会	5,000	助成金	
濱生牧恵	10,000	井上康市	10,000	(社福)西日本新聞民生事業団	150,000
待井弘道	10,000	西南学院バプテスト教会	20,000		
久能治子	10,000	田中幸彦	2,000	コカ・コーラ支援自販機	
宮崎宏之	10,000	福岡女学院中学校・高等学校	10,000	(財)恵愛団(九州大学病院内)	78,031
合屋四郎	10,000	在日大韓基督教会 福岡中央教会	10,000	西部ガスホールディングス(株) (パビヨン24内)	98,531
		本山智敬	10,000	西部ガスホールディングス(株) (油山研修所内)	2,300
		福岡有田バプテスト教会	5,000	西部ガス都市開発(株) (サンテ飯倉内)	2,776
		長住バプテスト教会	10,000	西部ガス都市開発(株) (ニシコー千代ビル内)	7,482
		田中幸彦	2,000	㈲ダイキ通信工業(自社内)	20,240
		日本基督教団 前原教会	5,000	南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	60,519
		匿名	20,000	㈱西日本新聞社(本社)	33,223
		佐藤豊秀	30,000	㈱西日本新聞プロダクツ (製作センター)	16,101
		日本基督教団 福岡城東橋教会	10,000	福岡県弁護士会 (福岡県弁護士会館内)	5,446
		井原洋子	10,000	JFEパイプライン(株)(自社内)	2,925
		学校法人 福岡女学院	76,363		
賛助会					
五斗みち子	5,000				
一般寄附					
カトリック笹丘教会	10,000				
匿名	10,000				
久保千春	20,000				
山下 剛・山下清美	110,000				



INFORMATION

インフォメーション



日誌 2022.12.1~2023.2.28

12月

- 3 第48期生養成講座(1日目)
(講師：花田利郎氏)
- 4 “ (2日目)
- 5 相談活動運営委員会
- 7 第48期生養成講座
(講師：久保千春氏)
- 8 第9回理事会
受信資料検討班会
- 10 フリーダイヤル
「自殺予防いのちの電話」
連盟インターネット相談員養成
研修
- 13 事業ボランティア「手づくり会」
- 16 事務局会議
拡大教育委員会
第9回教育委員会
- 21 第48期生養成講座
(講師：楯林英晴氏)
- 24 連盟インターネット相談員養成
研修

1月

- 5 第48期生養成講座
(講師：松浦賢長氏)
- 6 相談活動運営委員会
受信資料検討班会

- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
事業ボランティア「手づくり会」
- 12 福岡城東ライオンズクラブ
「寄附金贈呈式・理事長卓話」
- 19 第48期生養成講座
(講師：吉野 正氏)
- 21 自主研修「ケースと私」
- 24 事業ボランティア「手づくり会」
- 25 事務局会議
第10回教育委員会
- 27 連盟インターネット相談サポーター
研修
スーパーバイザー会
- 28 研修運営班会
- 30 第10回理事会

2月

- 1 第48期生養成講座
(講師：笠原嘉治氏)
- 2 福岡鶴城ライオンズクラブ「寄
附金贈呈式」
- 4 ブラッシュアップ研修
(講師：吉良安之氏)
連盟インターネット相談員養成
研修(OJT)
- 6 相談活動運営委員会
- 7 広報企画会議

- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 13 インターネット相談活動班会
連盟インターネット相談員養成
研修(OJT)
福岡博多東ライオンズクラブ結
成55周年記念式典「寄附金贈呈
式」
- 14 事業ボランティア「手づくり会」
事業ボランティア例会
- 15 受信資料検討班会
事務局会議
第48期生養成講座
(講師：岡 秀樹氏)
- 17 共同募金会聞き取り
- 18 相談員集会
- 20 朝日新聞厚生文化事業団「助成
金贈呈式」
- 21 第11回理事会
- 24 第11回教育委員会
研修運営班会
- 25 ボランティア養成サポーター
自主研修(講師：末松 涉氏)
連盟インターネット相談員養成
研修(OJT)
- 28 事業ボランティア「手づくり会」

【編集後記】

ロシアによるウクライナへの侵攻が2年目に入り、新型コロナウイルスのパンデミックは4年目です。この2つの出来事は世の中を大きく変えました。

2つの大戦を経て、国際社会は平和と人権尊重を共通の価値としましたが、今私たちはウクライナで戦う戦闘員の姿や住民が殺傷される行為、生活インフラの破壊を目にしています。この地球上には、戦争や殺戮で支配を試みる人々ばかりでなく、平和と人権に力を尽くす人々、すべての人を尊敬し愛する人々が共に生きています。平和と人権の危機に際して、あらゆる立場の人々が対話することの大切さをあらためて強く感じます。

新型コロナウイルスによって仕事や学業、日々の生活が一変しました。マスク生活が長く続き、親しい家族や友人と過ごす時間が減り、人と人の物理的な距離は遠くなりました。SNSなどを使った新しいつながり方が急速に広がっています。ウィズコロナ、ポストコロナの時期になっても、パンデミックで変容した社会は元の形に戻りません。新しい生活様式を柔軟に取り入れながら、人と人の心がしっかりつながる社会を丁寧に作っていきたい。(Y. T)

電話受付件数

2022年12月～2023年2月

受付件数	3,373件
延べ相談員数	922人
延べ受信時間	101,071分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス

<http://www.f-inochi.org/>

発行人 久保 千春
編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。